

祝 ユネスコ無形文化遺産登録 ふりゅうおどり 風流踊



近江湖南のサンヤレ踊り
おづえまつ さいれいげいのう
-小杖祭りの祭礼芸能-

登録記念 映像上映と写真パネル展

期間 12月1日(木)～令和5年5月7日(日)

月曜、祝翌日休館(栗東歴史民俗博物館の休館日と同じ、詳しくはHPでご確認ください。)

会場 栗東歴史民俗博物館 ロビー

栗東市小野 223-8 TEL 077-554-2733 / FAX 077-554-2755
URL <http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>



おづえまつ 小杖祭りの祭礼芸能は栗東市下戸山のおつきたいしや小槻大社の春の例祭での祭礼行列やそこで行われる所作や踊りを指します。小槻大社は氏子圏が広く、毎年の例祭は氏子の地域が輪番で祭礼行列を出します。輪番はその年の干支によって決まっています。

祭礼には大型のかさぼこ傘鉾やくんぼい軍配など大人が担う役割のほか、たいこう太鼓受け、たいこう太鼓打ち、ぼうふり棒振り、つちうち槌打ち、たいつ鯛釣りなど若い男児が担う役割があります。また少し年長の男児たちがかね鉦やふえ笛などのなはし囃子を担当します。はながさおどり花笠踊りでは、棒振り、槌打ち、鯛釣りが五穀豊穰を願う所作を行い、その後囃子に合わせて大型の傘鉾が振り回される下、太鼓打ち、太鼓受けが跳ね踊ります。太鼓打ち、太鼓受けが跳ねるたびにから絡げたそでそでをゆ結わえている色とりどりのたすき褌がはためきます。周りで囃子を演奏する男児たちもはながさ振袖に花笠を被って装い、華麗なふりゅうおどり風流踊の世界が展開されます。

映像上映と写真パネル展

2022年、ユネスコ無形文化遺産保護条約第17回政府間委員会において、日本各地に残る「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。登録されたのは、全国各地に伝わる風流踊のうち、国指定重要無形民俗文化財41件です。

ここ滋賀県からは国の無形民俗文化財に指定されている近江のケンケト祭り長刀振りと、近江湖南のサンヤレ踊りの2件が登録されました。



近江湖南のサンヤレ踊りは草津市域と栗東市域の7つの神社の祭礼やそれに付随する踊り、芸能の総称で、具体的には草津市域の立木神社（矢倉／以下、括弧内は祭礼、踊りをする地域）、老杉神社（下笠）、印岐志呂神社（片岡、長東）、志那神社（志那）、三大神社（志那吉田）、惣社神社（志那中）の祭礼、栗東市域の小槻大社（坊袋、目川、川辺、岡、下戸山、草津市山寺）の祭礼があります。いずれの祭礼にも踊りがあることが特徴です。また、草津市域の7つの神社（地域は8つ）の祭礼の踊りはいずれも“サンヤレ”の囃し言葉があることが特徴で、それゆえ“サンヤレ踊り”と呼ばれています。



花笠を踊り手や囃し手が被ることなど風流踊の特徴が見られ、「風流踊」の一つとして評価されています。

栗東市域の小槻大社の祭礼である小杖祭りにも花笠踊りとよばれる踊りがあります。この踊りには“サンヤレ”の囃し言葉こそありませんが、踊りの所作や男児の囃し手が付くことなど草津市域のサンヤレ踊りと共通するものと考えられます。

草津市域、栗東市域のいずれの祭礼にも男児の囃し手が女物の着物や化粧で着飾ったり、花の装飾が施された



栗東歴史民俗博物館